

牧草用輸入ラップフィルムの 実用性確認試験

JA忠類

杉本 直幸



8月28日 ラッピング作業①



8月28日 ラッピング作業②



8月28日 ラッピング後



11月13日 保管時 左(白線あり):試験品 右(白線なし):慣行品



11月13日 試験品保管時



11月13日 慣行品保管時

試験目的

牧草用輸入ラップフィルムの実用性確認試験

試験作物 及び品種

牧草

試験資材 及び数量(規格)

グラスワインド(黒)(厚さ0.025mm×幅500mm×長さ1800m) 2本

慣行資材

G-MAX(黒)(厚さ0.025mm×幅500mm×長さ1800m)

資材使用期間

8月28日～来春開梱予定

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

慣行品をラッピングした後に、試験品をセットして作業を行った。

慣行品との違いは感じず、ラッピング中に切れなども起こらなかったため、作業性には全く問題なかった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

春に開封予定であるため牧草の品質は不明だが、ラッピングした状態は、問題ないとのことであった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：作業性や品質について、慣行品と大きな差がないと思われるので、安価である点に優位性があるといえる。

【問題点】：大きな問題点はなかった。

モニター感想

使用前のラップフィルムについて、慣行品は箱内において紙で包装されているのに対し、試験品は透明のフィルムで包装されているので、紙の方でいいのではないかと感じた。また、ラップフィルムを機械にセットする際、慣行品の方がラップ端部分を探しやすかった。サランラップのように、つまみのようなものがついていると剥がしやすいと思う。感覚的にはあるが、慣行品に比べ試験品の方が、牧草を巻くことができた個数が1～2個少ないように感じた。

JA担当者の感想(購買課 平岡氏)

ラップフィルムを1番草でも使用する農家にとっては、資材コストは問題となっている。

商系業者や機械メーカーから農家へ直売されている状況もあるので、品質が安定した安価な資材を引き続き提案してもらいたい。

今後の使用について

越冬してから最終的な評価をし、取扱いについて検討する。

将来希望する資材について

- ①ラップフィルムの軽量化。
- ②持ちやすい外装箱。
- ③農家配送時に積載しやすいような、横置きできるもの。

1 クリント

2 高温対策

3 害虫忌避効果

4 滑雪効果

5 生分解性マルチ

6 その他

7 酪農資材